



新病院建設News No.12



医療センターでは、老朽化や狭あい化に起因する問題を解決するため、建て替えの計画を進めています。令和6年度に工事の施工者を決める入札手続きを行いました。施工者が決まらず、予定通りに事業を進めることができなくなりました。現在、事業をどのように進めていくか検討しています。

引き続き、新病院建設Newsでは、新病院の計画や検討状況などをお伝えしていきます。

院長 茂木 健司

今回の内容

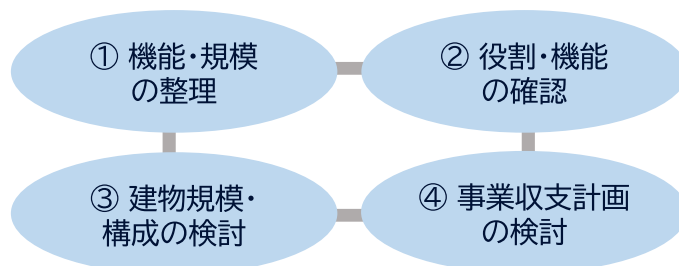
移転建て替えの検討状況について

令和7年9月に市が設置した、医療センターの移転建て替え実施に向けた検討を行う“船橋市立医療センター移転建替庁内協議会”での検討状況をご説明します。主な内容は、『新病院の病床数を、現計画の500床から400床程度に変更して、引き続き検討を進めていく』というものになります。

庁内協議会で行うこと

①新病院の機能や規模を整理し、②その結果が地域医療の観点から見て問題ないかを確認し、③どのような建物になるのか、どれくらいの工事費になるのかを検討し、④新病院に必要な費用の支払いについて検討します。

①から④の結果を整理し、その結果から市として事業をどのように進めていくかを決めています。



これまでの経緯と今後について

新病院の将来像について整理した建て替えの基本構想を策定してから10年近く経過しています(下図)。この間、体への負担がより少なく、入院期間が短くて済むような治療が増えています。また、入院しないでできる治療も増えています。庁内協議会では、このような医療の進歩や変化をふまえて、あらためて新病院の機能や規模を整理して、建て替え実施に向けた検討を行います。



体への負担が少ない治療って？

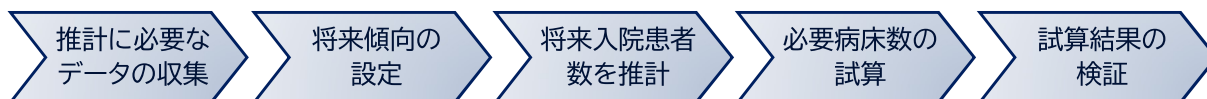
以前は、開腹・開胸・開頭など体を大きく切開して手術していたものが、内視鏡を用いた手術やロボット手術、カテーテルを用いた血管内治療でできるようになりました。このような治療は、体への負担が少ないことから、入院の期間も短くなります。

入院しないでできる治療って？

がんの治療を例にあげると、主に手術療法、放射線療法、薬物療法がありますが、薬物療法では、抗がん剤や副作用を抑える薬の進歩により、入院をしないで行う化学療法が増えています。また、放射線治療も、入院をしないで治療ができるケースが多いです。

庁内協議会の検討状況

『①新病院の機能や規模の整理』について、医療政策や医療情報などの研究を行っている有識者（次世代医療構想センター）の助言等をいただきながら、将来の人口や医療需要の見込み、医療体制などの動向を踏まえ、将来の入院患者数を推計し、そのために必要な病床数（ベッド数）を検証しました。



● 検討のPoint

■将来の人口

- ・船橋市を含む東葛南部保健医療圏の総人口は、2030年にピークを迎えます。65歳以上の老年人口は、推計期間の終点である2050年が最大となっています。（※1）

■包括期機能

- ・医療センターは、高度急性期機能を担っていますが、厚生労働省の検討会では、今後増加していく高齢者の救急患者（比較的軽症・中等症の疾患が多い）の受入れを、急性期と回復期の機能をあわせもつ、地域の包括期機能の病床で担っていくことが議論されています。（※3）

■入院する人の割合

- ・厚生労働省が実施している調査によると、病院の入院受療率（人口10万人あたりでどのくらいの人が入院したかの推計）は、低下傾向となっています。（※2）

■将来の必要病床数の見込み

- ・厚生労働省の検討会では、医療技術の進歩や医療提供の効率化等で受療率が低下してきていることをふまえ、今後の必要病床数の算定にあたっては受療率の低下を組み込んでいくことが議論されています。（※3）

※1 国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口による
 ※2 厚生労働省 患者調査（過去10回の調査結果を整理）による
 ※3 地域医療構想及び医療計画等に関する検討会資料による

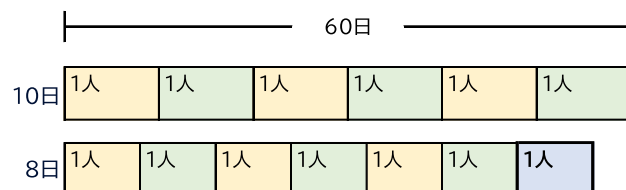
● 病床数は400床程度に

協議会の検討結果について、船橋市医師会、船橋歯科医師会、船橋薬剤師会よりご意見を伺い、地域医療の観点から、『②新病院の役割・機能の確認』を行いました。

新病院になっても、医療センターが地域医療の中で担っている役割（第三次救急医療機関、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域災害拠点病院など）は変わりませんが、今後も患者への負担が少ない治療が増え、入院期間が短くなっていくことなどを踏まえ、必要な病床数を現在の計画の500床から400床程度に減らすと整理しました。

入院期間が短くなると必要な病床数が減るの？

例えば、一つの入院のベッドがあり、60日間では何人の患者さんが入院できるかを考えてみます（右図）。一人の入院期間が10日の場合と8日の場合で比べると、10日の場合は、60日間で6人の入院となりますが、8日の場合は7人の入院となります。同じ入院患者数でも、入院期間が短くなると患者さんの入れ替わりが速くなりますので、少ないベッドで対応できることになります。



庁内協議会の今後の検討

現在は、『③建物規模・構成の検討』として、必要な病床数を基にどれくらいの建物になるのか、どれくらいの工事費になるのかなどを概略で検討しており、令和7年度中に整理する予定です。この結果を基に、『④事業収支計画の検討』に本格的に着手し、令和8年度の上半期中に結果を整理することを目指して進めております。

協議会としての案を整理した後、市として事業の方向性を判断します。

お寄せいただくことが多いご質問・ご意見についての市の考え方も掲載しています。



新病院整備に関する内容は医療センターホームページにも掲載しています。